

本号には、読みごたえのある論文がそろった。まず、序説を担当した市川氏の問題提起の明快さが期待感を膨らませてくれる。望月氏の Borrmann の原著に関する記載は、科学論文の翻訳においてそれぞれに異なる言語が意味するものの対応性を厳密にしなければならないことを強調すると共に、外国文献の読み方の基本、それを批判する作法などを教えてくれる。氏は日本流の Borrmann 分類に Borrmann の名を冠することは不合理と断じている。とはいうものの、この分類があったればこそ、診断、外科、病理の三角関係が生じ、わが国の胃癌の研究が今日の発展をみたことを認めないわけにはいかない。

中村氏は胃癌の組織発生の理論を支柱に独自の肉眼分類を提唱し、渡辺氏の分類の基本は中村氏と同じようであって実は全く異なるように思える。アメリカの Ming が喜びそうな感じだが、肌理の細かさが Ming とは随分と違う。岩永、紀藤

の両氏は外科の立場からあくまでも“早期癌類似進行癌”に市民権を与えようと必死の記述を試みている。そして、岡島氏は胃癌研究会の肉眼分類の責任者として極めて穏健な表現に終始しながらも氏の主張を余すところなく言い切っている。

貝原氏は控え目に、しかし勇気を持って術前情報を含む2例を提示した。X線、内視鏡の専門家を自認する人達の好餌となるも敢えて辞せずとの気概が好ましい。この精神こそわが「胃と腸」の存在の基本理念であろう。

いささか自画自賛になるが、座談会はこれまで20巻を越えた本誌の中でも傑作の1つだろう。市川氏の仕掛けに皆が嵌められたようにみせかけて、強烈な自己主張を貫いている。特に、市川 vs 渡辺のやりとりは討論の域を出てもう喧嘩と言えるものであったのだが、その臨場感を味わってもらいたい。本号がわが国の胃癌学の完成のための新たな出発点となることを念じつつ、

胃と腸

9月号(第21巻・第9号)予告

発売予定 9月2日
定 価 1,700円

主題／潰瘍性大腸炎と大腸癌

- 序 説 潰瘍性大腸炎に合併する癌と dysplasia—欧米と日本の実状—……………東大・1外 武 藤 徹一郎
主題症例 …… 塚越洋元・他(札幌厚生病院)／味岡洋一・他(新潟大・1病理)／田中昌宏・他(自治医大・酒内)
藤原庸隆・他(藤田学園・服部内科)／杉田 昭・他(横浜市大・2外)／児玉 正・他(京府医大・3内)
阪本康夫・他(阪大微研・外)／今村 秀・他(九大・2病理)／小西文雄・他(東大・1外)
阿川千一郎・他(東大・1外)
座 談 会 潰瘍性大腸炎と大腸癌……………浜松医大・1病理 喜納 勇・他
(編集頁の都合で掲載論文が若干変更になることがあります。)

胃 と 腸 (第21巻 第8号)

編 集 早期胃癌研究会
発 行 株式会社 医学書院
代 表 者 椿 孝雄
〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3
☎ 受付台 (03) 817-5600
本誌編集室直通 (03) 817-5714
販売部直通 (03) 817-5659

1986年8月25日発行(毎月25日発行)
1部定価1,700円(配送料80円)
年ぎめ予約購読料19,080円(送料弊社負担)
FAX (03) 815-7802
振替口座 東京 7-96693 番
印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 813-5001
広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 814-5771

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1986, Printed in Japan.

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当) 窪田・長谷川・大竹